

Well-posedness for a generalized derivative nonlinear Schrödinger equation

林 雅行 (早稲田大学)*

$\Omega \subset \mathbb{R}$ を開区間とし、ディリクレ境界条件のもとで、以下のシュレディンガー方程式の初期値問題を考える。

$$\begin{cases} i\partial_t u + \partial_x^2 u + i|u|^{2\sigma} \partial_x u = 0, & (t, x) \in \mathbb{R} \times \Omega, \\ u(t, x) = 0, & (t, x) \in \mathbb{R} \times \partial\Omega, \\ u(0, x) = \varphi(x), & x \in \Omega. \end{cases} \quad (1)$$

ここで、 $u(t, x)$ は複素数値の未知関数であり、 σ は正の定数である。微分方程式 (1) はハミルトン構造を持ち、形式的には次のようなチャージとエネルギーの保存則が成り立つ。

$$\begin{aligned} M(u(t)) &:= \int_{\Omega} |u|^2 dx = M(\varphi), \\ E(u(t)) &:= \int_{\Omega} \left(|\partial_x u|^2 + \frac{1}{\sigma+1} \operatorname{Im} |u|^{2\sigma} \bar{u} \partial_x u \right) dx = E(\varphi). \end{aligned}$$

$\sigma = 1$ のときは、プラズマ物理や非線形光学に現れる方程式であり、物理的にも重要であるため、多くの研究結果がある。しかし、これらは、非線形項が十分に滑らかであることを用いており、一般の σ に対しては適用できない。特に、 $\sigma < 1$ のときは、非線形項が C^2 級にもならないので従来の方法による解析は困難になる。

一般の $\sigma > 0$ に対する (1) の可解性に関して、Hao [2] は、 $\sigma \geq 5/2$ のとき、 $H^{1/2}(\mathbb{R})$ において局所適切性を示し、Ambrose-Simpson [1] は、 $\sigma \geq 1$ のとき、 $H^2(\mathbb{T})$ において局所解の存在と一意性、 $H^1(\mathbb{T})$ において局所解の存在を示した。また、最近、Santos [5] は、 $1/2 < \sigma < 1$ のとき、重み付きのソボレフ空間 $H^{3/2}(\mathbb{R}) \cap (1+x^2)^{-1/2} H^{1/2}(\mathbb{R})$ において、 $\sigma > 1$ のとき、 $H^{1/2}(\mathbb{R})$ において、小さな初期値に対して局所解の存在と一意性を証明した。Liu-Simpson-Sulem [4] は σ の値に応じて、数値計算の結果も用いて、軌道安定性を議論している。ただし、[4] では、 $H^1(\mathbb{R})$ における解の存在と一意性は仮定されている。

このように、一般の $\sigma > 0$ に対してはエネルギー空間 H^1 においても、まだ適切性は十分に分かっていない。本研究では、 $\sigma \geq 1/2$ のとき、 H^1 と H^2 における (1) の適切性を考察した。以下、主結果 ([3]) を述べる。まず、 H^2 における適切性に関しては次の定理 1 が成り立つ。

定理 1. $\sigma \geq 1/2$ とする。 $\varphi \in H^2(\Omega) \cap H_0^1(\Omega)$ に対し、 $T = T(\|\varphi\|_{H^2}) > 0$ が存在し、初期値問題 (1) を満たす $u \in C([-T, T]; H^2(\Omega) \cap H_0^1(\Omega))$ が一意的に存在する。 $\varphi_n \in H^2(\Omega) \cap H_0^1(\Omega)$ に対する (1) の解を u_n とすると、 $\varphi_n \rightarrow \varphi$ in $H^2(\Omega)$ ならば $u_n \rightarrow u$ in $C([-T, T]; H^s(\Omega))$ ($0 \leq s < 2$) が成り立つ。

エネルギー空間 H^1 における適切性に関しては、次の定理 2 と定理 3 が成り立つ。

定理 2. $\sigma \geq 1$ 、 Ω は非有界な開区間とする。 $\varphi \in H_0^1(\Omega)$ に対し、 $T = T(\|\varphi\|_{H^1}) > 0$ が存在して、初期値問題 (1) を満たす $u \in C([-T, T]; H_0^1(\Omega)) \cap L^4((-T, T); W^{1,\infty}(\Omega))$ が一意的に存在する。さらに、以下のことが成り立つ。

本研究は小澤徹教授 (早稲田大学) との共同研究に基づく。

* e-mail: masayuki-884@fuji.waseda.jp

- 1) $u \in L^q((-T, T); W^{1,r}(\Omega)), \forall (q, r) \text{ s.t. } 0 \leq 2/q = 1/2 - 1/r \leq 1/2.$
- 2) $M(u(t)) = M(\varphi), E(u(t)) = E(\varphi), \forall t \in [-T, T].$
- 3) $\varphi_n \in H_0^1(\Omega)$ に対する (1) の解を u_n とすると, $\varphi_n \rightarrow \varphi$ in $H_0^1(\Omega)$ ならば $u_n \rightarrow u$ in $C([-T, T]; H_0^1(\Omega))$ が成り立つ.

定理 3. $\sigma \geq 1$, Ω は非有界な開区間とする. $\varepsilon_0, \varepsilon_1 > 0$ が存在して $\varphi \in H_0^1(\Omega)$ が

$$\begin{aligned} \sigma = 1 \text{ のとき, } & \|\varphi\|_{L^2} \leq \varepsilon_0, \\ \sigma > 1 \text{ のとき, } & \|\varphi\|_{H^1} \leq \varepsilon_1 \end{aligned}$$

を満たすと仮定する. このとき, 初期値問題 (1) を満たす $u \in C(\mathbb{R}; H_0^1(\Omega)) \cap L_{\text{loc}}^4(\mathbb{R}; W^{1,\infty}(\Omega))$ が一意的に存在する. さらに, 以下のことが成り立つ.

- 1) $u \in L_{\text{loc}}^q(\mathbb{R}; W^{1,r}(\Omega)), \forall (q, r) \text{ s.t. } 0 \leq 2/q = 1/2 - 1/r \leq 1/2.$
- 2) $M(u(t)) = M(\varphi), E(u(t)) = E(\varphi), \forall t \in \mathbb{R}.$
- 3) $\varphi_n \in H_0^1(\Omega)$ に対する (1) の解を u_n とすると, $\varphi_n \rightarrow \varphi$ in $H_0^1(\Omega)$ ならば $u_n \rightarrow u$ in $C_{\text{loc}}(\mathbb{R}; H_0^1(\Omega))$ が成り立つ.

$1/2 \leq \sigma < 1$ のときは, 次の定理 4 が成り立つ.

定理 4. $1/2 \leq \sigma < 1$ とする. $\varphi \in H_0^1(\Omega)$ に対し, 初期値問題 (1) を満たす $u \in (C_w \cap L^\infty)(\mathbb{R}; H_0^1(\Omega))$ が存在する. さらに, $M(u(t)) = M(\varphi), E(u(t)) \leq E(\varphi) (\forall t \in \mathbb{R})$ が成り立つ.

無条件一意性に関しては, 次の定理 5 が成り立つ.

定理 5. $\sigma \geq 1/2$ とする. 初期値問題 (1) において, $L^\infty((-T, T); H^{3/2}(\Omega) \cap H_0^1(\Omega))$ のクラスで一意性が成り立つ.

本講演では, 適切性に関する結果 (定理 1, 2, 3) を中心に述べる予定である. 時間があれば, 一意性に関しても触れたい.

参考文献

- [1] D.M. Ambrose, G. Simpson, *Local existence theory for derivative nonlinear Schrödinger equations with non-integer power nonlinearities*, SIAM J. Math. Anal. **47** (2015), 2241-2264.
- [2] C. Hao, *Well-posedness for one-dimensional derivative nonlinear Schrödinger equations*, Commun. Pure Appl. Anal. **6** (2007), 997-1021.
- [3] M. Hayashi, T. Ozawa, *Well-posedness for a generalized derivative nonlinear Schrödinger equation*, arXiv:1601.04167, 2016.
- [4] X. Liu, G. Simpson, C. Sulem, *Stability of solitary waves for a generalized derivative nonlinear Schrödinger equation*, J. Nonlinear Sci. **23** (2013), 557-583.
- [5] G.N. Santos, *Existence and uniqueness of solution for a generalized nonlinear derivative Schrödinger equation*, J. Differential Equations **259** (2015), 2030-2060.